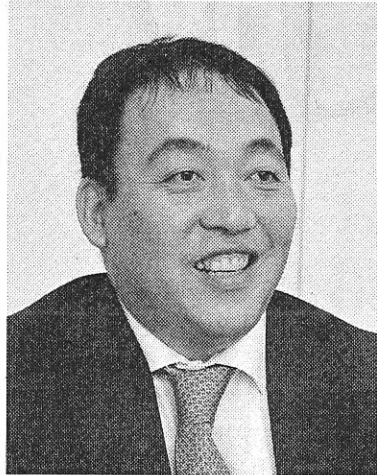


藤澤・Jトラスト社長に聞く



積極的なM&A（合併・買収）などで事業を拡大しているJトラスト。8月2日には、ノンコミットメント型のライツ・オフアリング（上場型新株予約権の無償割当）で約977億円の資金調達を行ったことを発表。今後の成長戦略を藤澤信義社長（43）に聞いた。

「今年に入りエクイティファイナンスを行う環境が整い、ライツ・オフアリングによる資本力向上を決めた。約1千億円の規模もそうだが、内容からみても大成功だと思っている。当社は08年3月以降、数々のM&Aや債権買い取りを行い事業を拡大し

——調達の目的は。

「今年に入りエクイティファイナンスを行う環境が整い、ライツ・オフアリングによる資本力向上を決めた。約1千億円の規模もそうだが、内容からみても大成功だと思っ

——貯蓄銀行は。

「12年10月の親愛貯蓄

を継続するとともに、自前でも新規貸出を増強するが、BIS基準維持のため25億円程度の増資を行う計画だ。現在の預金には東北以北が空白地域を要因として好決算となり、大変喜ばれた」

1000億円を成長資金に

保証提携は10行程度で

りを行い事業を拡大し、今後は、こうしたビジネスモデルの転換期に入るなかで、韓国では貯蓄銀行業に参入した。国内ではクレジットカー

銀行の開業時は預貸率が約20%だった。その後、消費者ローン債権を買い取って約70%になり、収益が上がる状況になった。今後も債権買い取り

ン金利の上限は39%。今後は、30%に下がる見込みだが、利ざやはまだ大きい」

「現在、日本保証とK

「調達資金を使ってカード会員の積み上げを強化する。この点では通販や不動産賃貸、英会話学校など月々の料金が発生する事業者との業務提携や資本提携なども視野に入れていく」

い。我々の保証業務は集客のためのマーケティングや不動産賃貸、英会話学校など月々の料金が発生する事業者との業務提携や資本提携なども視野に入れていく」

（聞き手＝竹腰 良保）